産学連携による地域イノベーション創出－１２
（実証研修の効果）

○川崎一正（新潟大）、北村寿宏、丹生晃隆（島根大）、伊藤正実（群馬大）、藤原貴典（岡山大）

１．はじめに

本研究は、産学官の連携による新事業の創出、さらには、地域イノベーションの創出、特にテクノロジーイノベーションの創出、の促進を目指し、①それらの創出を担う技術系人材の効果的な育成に活用できる教材を開発すること、②創出を支えるシステムの構築に向けて地域イノベーションの創出をモデル化することを目的としている。

先の北村らの報告に基づき、上記①の一環として、第 16 回九州ビジネスインキュベーションプラザ・ワークショップにおいて、MOT（Management of Technology）ケーススタディ実証研修を行った[(1)]。本稿では、この実証研修の効果および教材の評価を検証するため、アンケート調査を行ったので、それについて報告する。

２．調査

2.1　調査の方法と内容

調査は、MOT ケーススタディ実証研修対象者に対して、研修最後にアンケートを実施し、それを回収し、分析を行った。アンケートの内容は、(1) 対象者自身、(2) 実証研修、(3) 教材、(4) 産学連携、(5) 総合評価、から構成されており、対象者全員から回答が得られた。

2.2　調査結果

紙面の関係で、実証研修対象者 18 名から得られた主な結果のみを示す。

(1) 対象者自身：年齢は 30 代、40 代、50 代、60 代以上でほぼ同程度にばらついていた。IM（Incubation Manager）としての経験は、3 年以上 5 年未満の割合が最も高く、次いで 1 年以上 3 年未満と 5 年以上 10 年未満の割合が同程度に高かった。現在までに所属していた企業・団体等の業種・業界は、ばらつきがあったものの、金融・保険の割合が最も高く、次いで製造業の割合が高かった。バックグランドは、ばらつきがあったものの、経営管理・企画の割合が最も高く、次いで営業・販売と総務・人事の割合が同程度に高かった。産学連携活動に関する業務経験は、本実証研修では IM を対象としているため、大学発ベンチャー支援の割合が最も高く、次いで企業からの相談を大学に照会、大学研究者と企業による助成金申請の順に高かった。バックグランドとしての文系・理系では、文系の割合が若干高かった。

(2) 実証研修：講師の説明のわかりやすさや聞き取りやすさに対して、とてもそう思うおよび概ねそう思うがほとんどを占めた。また、授業の進行度、全体の時間配分、グループ討議の時間、解説の時間に対して、早すぎた、とても長い、少し短いという回答が若干あったものの、ほぼ適切であるとの回答が得られた。さらに、グループ討議の満足度について、ほとんど満足しているという回答が得られており、また産学連携の特徴や活用の理解を深めるのに解説も含めてほぼ役立ったという回答が得られた。なお、これに加えて自由記述として、研修の改善点やご意見を伺ったところ、書記をするとディスカッションに参加しにくい、失敗事例もあった方が良い、前提条件がはっきりしない、ケーススタディ 1 の事例はケース毎に別の観点があり捉えにくい、グループ討議から発表までの時間が足りない、などの回答があった。

(3) 教材：教材の分量、難易度、情報については、多いや少ない、不足という回答が若干あったものの、ほぼ、適切である、十分という回答が得られた。また、予習を行う時間については、十分あったと概ね十分あったを併せると、少し不足していたを若干上回っていたが、予習時間は十分とはいえない状況であった。しかし、教材に関しては、ほぼ産学連携の特徴や活用の理解を深めるのに役立ったという回答を得た。なお、これに加えて自由記述として、教材の改善点やご意

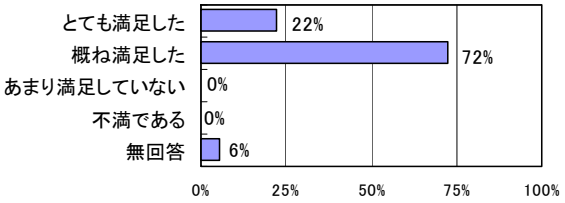

図１　研修全体の満足度

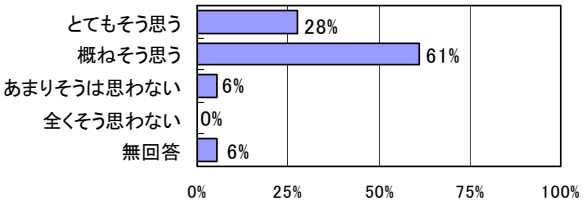

図２　今後の受講の意志の有無

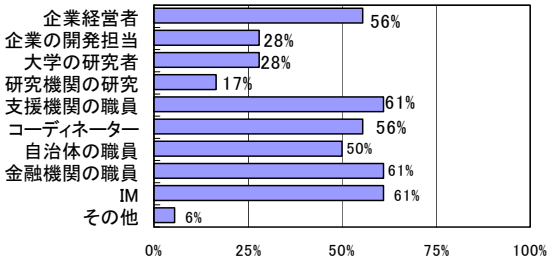

図３　研修を受けると良いと思う業種

見を伺ったところ、説明の不要部分あり、前提条件がやや不明確、注意すべき項目がわからない、産学連携のマニュアル的なものが欲しい、失敗事例もあった方が良い、ポイントがわかるようなまとめが必要、などがあった。

(4) 産学連携：産学連携や大学を活用した経験については、半数以上があると回答しており、また今後活用方法の詳細について理解したいという回答がほとんどであった。また、今回の研修で産学連携やその活用について十分な知識が得られた、また今後産学連携を活用したい、産学連携は、今後の業務に役立つという回答もほとんどであった。以上より、本実証研修を通して、産学連携は IM に対しても効果があり、活動のツールとしても期待されているといえよう。

(5) 総合評価：今回の研修全体の満足度に関しては、図 1 に示すように、とても満足したあるいは概ね満足したとほぼ全てが回答しており、満足度は高いといえる。また、今後の研修の受講の意志の有無は、図 2 に示すように、とてもそう思うと概ねそう思うを併せると全体の 90%程度を占めており、また受講したいという希望が強いことがわかる。最後に、この研修を受けると良いと思う業種（複数回答可）は、図 3 に示すように、支援機関の職員、金融機関の職員、IM、企業経営者、コーディネーター、自治体の職員が高い割合を示している。これらの職種は産学連携に関わる機会が多いことの現れであると思われる。総合評価についても自由意見を求めたところ、概ね感謝の言葉をいただいた。

３．考　察

本アンケートの調査結果からは、概ね良好な回答が寄せられ、産学連携やそれを活用した新事業創出のステップの理解を深めるために、教材と研修ともに有効であることが確認できた。一方で、実証研修、教材、産学連携の具体的事項においては、若干ではあるが満足していない回答もあり、また、改善すべき意見も寄せられた。なお、ケーススタディであるため、18 人という少ない数での調査であった。今後は、改善すべき事項を踏まえた上で、母集団（受講生の属性）を変えて同様の実証研修を行い、比較・検討することを考えている。

４．おわりに

本稿では、MOT ケーススタディ実証研修を行い、その効果および教材の評価を検証するため、アンケート調査を行った結果について報告した。今後も産学連携によるイノベーション創出のモデル化について検討していく予定である。

謝　辞

本研究は、科学研究費補助金（基盤研究 B　課題番号 21300292　H21～23 年度）の交付を受けて行われた。

文　献

(1) 北村寿宏、丹生晃隆、伊藤正実、川崎一正、藤原貴典、産学連携による地域イノベーション創出－１１（ケーススタディ教材の試作）、産学連携学会第 9 回大会講演予稿集、2011、発表予定.